

## 令和4年度 第2回南砺市立病院運営改革委員会

日 時 令和5年3月2日(木) 19:00～20:30

場 所 南砺市役所 4階 401会議室

(ZOOM参加：南砺市民病院、公立南砺中央病院、松倉委員)

出席者 委員5名 中山繁實(委員長)、松本久介(副委員長)、長瀬啓介、山城清二、松倉知晴、松智彦、鍛冶本秀子、岡山容美

市当局14名 (市長) 田中幹夫

(副市長) 齊藤宗人

(地域包括医療ケア部) 笠井部長

(南砺市民病院) 清水院長、藤井事務局長、吉岡総務課長、柴田医事課長

(公立南砺中央病院) 三浦院長、小又事務局長、南部総務課長、長谷川医事課長

(地域包括支援センター) 竹内主幹

(医療課) 松岩医療課長、松本主幹、小原主任

傍聴者1名 医療法人社団 良俊会 ふくの若葉病院 浦辺事務長

欠席者 委員1名 村井 眞須美

### 1 開会 19:00

### 2 開会の挨拶 中山委員長

### 3 協議事項

南砺市立病院改革プランの進捗に関する点検・評価(資料1-1、1-2)

#### 【質疑応答】

委員	職員給与費が2病院とも計画値を大きく下回っている。計画値との乖離ではあるが、職員は不足していないのか？
市民病院総務課長	病院運営に必要な職員数という視点では、主に看護師が不足しています。積極的なPR等を行いながら、看護師の確保に繋がっていきたいと考えます。

中央病院総務課長	当院では、病院運営に必要となる職員数に対し、看護師12名、薬剤師1名、言語聴覚士1名が不足している状況です。市民病院と同様、積極的なPR等により医療従事者の確保に繋がっていきたいと考えます。
委員	南砺地域は職場環境が良い。民間事業者などを上手に活用し、積極的なPRに取り組んでいただきたい。
委員	定年前に退職される職員も多いと聞いている。職員が辞めないための院内での対策も必要ではないか？
市民病院総務課長	当院では、職員向けの相談窓口を院内のポータルサイトに設置し、職場環境の改善等に繋がっています。

#### 4 報告事項

##### ① 南砺市病院事業将来ビジョンについて（資料2）

「資料2」に基づき、医療課長から説明

##### 【質疑応答】

委員	市立2病院のあり方については、毎回同じ議論を繰り返しているように感じる。これまでも2病院で一体的な運営を行っていくと言いながら何も変わっていない。南砺市の医療の将来を考えるならば市立病院は1つであるべきではないか。また、南砺市の中で2病院をどうしていくかという議論ではなく、砺波医療圏内で各病院がどのような役割を担っていくかを議論すべき。
市長	電子カルテによる市立2病院間での情報共有化など市立2病院の一体的運営に向けた取組は継続的に行っており、2病院の運営が何も変わっていないということはないと考えています。 病院の運営体制を大きく変えるには市立2病院の具体的な方向性を持って大学医局と協議する必要がありますし、砺波医療圏内における役割の明確化を行うためにも市立2病院の具体的な方向性を示す必要があります。これらの理由から、市としての病院事業将来ビジョンの策定を進めています。
委員	大学病院や県立病院といった大きな病院は富山県の呉東にしかない。富山県呉西には県立病院がなく、リハビリテーション病院もない。例えば、南砺中央病院の隣には北陸病院と支援学校が隣接している。中央病院を県立リハビリテーション病院の分院にすれば、この両方の施設とリンクすることができ、多くの市民がそ

	の恩恵を受けることができるのではないか？
市長	ご提案については、県には県独自の計画があるため、単に陳情要望するだけではなく、しっかりとした議論の上に協議を行っていく必要があると認識しています。
委員	全国的にも人口が減少しており、将来的に市町村合併が再度行われる可能性が高い。その時、2箇所も市立病院がある市と合併する市が果たしてあるのか。それが要因となって合併が進まないことを強く懸念している。
市長	現時点で県レベルでの病院再編の議論をする段階では無いと考えています。その議論をするには、まず市立2病院の方向性が明確化されなければならず、今回の病院事業将来ビジョンをスタートラインとして、次のステップに向かって進んでいきます。
委員	<p>専門的な視点からのご意見を述べられたので、一般市民の視点から意見をさせていただきたい。今回の病院事業将来ビジョンに記載されている市立2病院の役割分担という議論は10年前から想定されているものであり、病院事業将来ビジョンを策定したというが、本当に実現できるのかと不安を感じる。市は、市立2病院の一体的運営に向かって着実に計画を履行するとともに、その進捗等が市民に見える形で進めてもらいたい。</p> <p>また、一般市民からすると、市立2病院間で役割の明確化を行うとしているが、外来診療を1箇所に集約しないと記載されている理由、及び、中央病院の目指す方向に「整形外科を中心としたケアミックス病院（急性期、回復期、慢性期）」と記載されており、市立2病院間で急性期が集約化されていない理由が分かりづらい。2病院の存続を望んでおられる市民は多いが、「2病院を存続させるためには、病院間でこんな役割分担をしなくてはならない。その場合、このような不都合も生じるかもしれないが協力してほしい。」と訴えることが重要なのではないかと？その時には現在の表記は難しすぎるように感じる。</p>
医療課長	<p>病院事業将来ビジョンに使用されている言葉が専門的かつ難解な表現となっており、一般市民に理解しにくいことについては、陳謝いたします。</p> <p>まず、市立2病院の一体的運営に向けては、この病院事業将来ビジョンを踏まえて、来年度以降に策定する公立病院経営強化プ</p>

	<p>ランの中で、より具体的な目標や目標達成のための施策を盛り込み、着実に計画を履行していきたいと考えています。その際、病院事業将来ビジョンの3指針の1つである情報公開のあり方に則り、進捗状況を分かりやすい形で市民へ公表していきたいと考えています。</p> <p>次に、外来診療科を1箇所を集約しない理由については、外来診療は市民生活と密接に関連しているため、その影響を最小限に抑制するとしていることが理由です。一方、入院機能については、高度な医療を提供するための専門人材、高額医療機器等が必要となるため、この部分については医療資源が最適化されるよう2病院の役割を明確化し、一体的運営を行うことにより、医師確保の強化、経営強化を図ることとして策定しています。</p>
委員	<p>市民生活への影響を鑑みたとのことだが、外来も役割の明確化を行えばよいのではないか？市民自身でも、どこの外来に行くことが妥当かは判断できるのではないか？</p>
委員	<p>医師の立場としてコメントすると、患者さんが申告する症状だけでは何の病気か、またどれくらい重いのかは正確には分からないのが現状です。両方の病院で一定の規模の外来を持つことが必要だと考えます。</p> <p>また、中央病院の目指す方向性の中に急性期が入っていることについて、一般に患者の容態というのは一定ではなく、回復期や慢性期だと思っても急変することもあり得ます。そういった時に対処する能力というのは一定程度持たざるを得ないと考えます。であるならば、現時点での機能分化のあり方としては、こう書かざるを得ないのだと理解しています。</p>
委員	<p>外来診療については、現時点での考え方としては理解できる。一方、長期的には医療従事者も減少し、病院収益も減少する中で医療機器の購入・更新も役割に応じて効率的に行っていくべきであり、診療科の統合ということも必要になってくるのではないかと考える。</p> <p>また、中央病院をケアミックス病院とし、慢性期病床を持たれるのであれば、同じ慢性期病床を有する市内の医療機関との役割明確化についても、公立病院経営強化プランの中に明記いただきたい。</p>
委員	<p>医師の働き方改革により、医師の勤務時間が減れば、少なから</p>

	<p>ず外来診療への影響があるものと考えている。限られた医療資源を最適化するとともに、医療従事者の負担軽減により疲弊を防ぐため、外来時間の短縮などを住民にお願いし、理解を求めていくことも必要なことと考える</p>
<p>委員</p>	<p>医師の視点、大学の視点及び病院経営の視点のそれぞれの視点から、今回の病院事業将来ビジョンの策定及びその成果について所感を言わせていただきたい。</p> <p>始めに、この病院事業将来ビジョンを策定されたことは素晴らしいことだと考える。これまで、市当局や市内医療機関、住民が当たり前だと感じていたであろうことが、病院事業将来ビジョンの最終ページのポンチ絵に明確に描かれている。当たり前だと思っていた個々の想定が、実際にブレイクダウンさせたときに想定と若干異なっているという認識を我々は今日ここで共有した。今回、市長のもと、南砺市が市立2病院の進むべき方向を明確化したことが、何にも増して重要なことである。各自がそれぞれに理想像を持っていたことと思うが、これまで出発点を描けてきたかと言えばそうではなかった。</p> <p>大学の立場からすれば、南砺市には2つの市立病院があるが、それぞれの役割がよく分らない、また市立病院と民間病院との間で、役割の認識が十分に共有されていないことから、医師派遣がしにくい地域という印象があった。今回こうした形でビジョンを定めたことは、市として市立2病院の立ち位置を外部に対して説明できるということで大きな意味がある。</p> <p>次に、病院経営の立場からすれば「やっとここまで来た」という印象を受ける。「やっと」というのは、外的に制約されており自分たちでは変えられないこと、例えば、人口の減少や大学医局からの医師派遣などに基づき、その中で何ができるのかを具体的に定量評価し、経営が困難となる選択肢を排除することで、目指すべき病院運営のあり方を論理的に導き出したという成果は、当たり前と言えば当たり前だが、素晴らしいことである。</p> <p>最後に、市立2病院に勤務する医療従事者としての立場からどう見えるかについては、2つの病院は同じ市の病院とは思えないほど雰囲気違っており、外来診療のやり方も内容も違っている。この10年で市立2病院の医療レベルが均一化されてきたかと言えば、まだまだという印象を受ける。そうした中で誰もがこ</p>

	<p>のような将来的な長期ビジョンが必要だと思っていたにもかかわらず、策定できていなかったのも事実。それを今回形にし、市の方向性として打ち出したことには医療従事者の立場からしても大きな意味がある。</p> <p>この方向性を出した以上は、医療従事者みんなでここに向かって進んでいこうとまとまることこそが重要なのだと考える。</p>
--	---

## ② 経営強化プランの策定と策定スケジュールについて（資料3）

「資料3」に基づき、医療課長から説明

【コメント・質疑等はなし】

## ③ 看護学生等修学資金貸与制度の拡充について（資料4）

「資料4」に基づき、医療課長から説明

委員	令和4年度の実績は？
医療課長	薬学生1名、看護学生2名の応募があり、同3名への貸与を決定しました。
委員	看護師等が医療課と共に学校等へPRに行った方がよいのでは？
医療課長	積極的なPRが必要だと感じており、今年2月から近隣の高等学校へ直接説明に伺っているところです。新年度においても、高等学校や養成施設への訪問を検討しています。

## 5 事務連絡

令和5年度南砺市立病院運営改革委員会（改選年度）の開催日程について

第1回委員会は8月開催予定

【コメント・質疑等はなし】

## 6 閉会の挨拶 田中市長

## 7 閉会